



一角仙人

早句
是ハ天竺波羅奈國乃帝王



はくしるは下也。梅を此に傍み。
人乃仙人あり。鹿の胎心おやうい
生き。故より額より角より生
りて。是より依りてその名は一角
仙人とあり。くわら子細方と龍神と

一角



滅をあらそひの仙人神通をめぐ
諸竜をあらそひて岩屋の内に封
トこむる同敷日雨くさすの御門
此子と致さるるの多む此御方便を
由らばりて家に持たえたるを
らびるる義人の品所がま味
きる根人のまゝに仙境を
お

入らりて仙人の心を救へ神妙を
先かたにすまきよの御方便よ
日と大をまゝなる御と彼山路に
仙人の山雲行客の
跡をうづもれ松をまゝに
乃。身も破るる御の
雨。山陰をくだりて
百

唯今思の出ての梅の取及たる一角仙
 人こそ御芳る早河のしは是社一角を
 中仙か〜おしく面をさ人かき
 事帝れ振人子飛ぶのそ義教宮女
 乃秋桂の代黒羅綾けきぬまに只人
 とのみえおをびん。是のつめさ人あま
 し由とぞ早のれ子申さく。猶味の

たる振人か〜。振乃ゆきぬ。慰六
 酒を持ていづま〜。百きい人
 名仙境よハ松のゆきぬと兒茶をまお
 きく桂乃お病をまめ。年うれも不
 老うまの世あり酒を司事者
 由早をいへきさゆりあねん。唯志
 と清く人か。友人を敬まき。おの仙よ

酒をまじりて... 鬼畜よ... 面白白や... 舞樂の曲ぞ面

白ヨ... 仙... 帝都... 山... 剛

て。大地をひきつる也。あらしき
やちりのくもへん情れ盡し碎伏り
一具障り龍神を封じぬみさき
屋乃傲よ鳴動する行乃ゆへ者
やん魂上いんかやるよイフカク角仙人セニシ大回
あり心とまよふニシクまゆミヤウ酒サケは碎伏
て。雨ツバキ方リキをうめぬテシ天ア四シ封フのノむムらラひヒのノ魂マを

思ひ志きし山風あしく吹落てく
空うこの雲り岩屋も傲よゆるみ
えが磐石イハ界カイ方ハのノゆきユキ摧ツキきキらラ法ホウ龍リウ
乃安ハア弦シきキきキりリ時トキ仙人セニシむと
ろにありオ死シくク利リ劍ケンをヲ削ケりリ立タ
白ハシ竜リウ玉ギョクハハ黄ワウ金キン乃ノ甲ケツ冑ウをヲ著ツし
玉ギョク具グ乃ノ所トコロをヲのノちチまマひヒるル海カイ時トキ

一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百、

友之本者觀世大夫章句真本令發行畢

正徳六丙申歲弥生尚又天保十一庚子歲孟春改正再版
示来荏苒數十年ノ星霜ヲ經ルニ後ニ改正増補ヲ加ヘ
印刷附セザレバ之ヲ世ニ公ニスル能ハサルヲ悲ミ今般

宮内省御用達觀世清考校合ヲ以テ茲ニ之上梓トス云

明治十年十月

内目拾番 出取御届

同 十年三月

同 癸 兎

同 十年九月

同 出取御届

同 十年三月

同 外空番 發 兎

同 十年四月

同 別能仕番 出取御届

同 十年六月

同 發 兎

同 十年十月廿五日別製奉御届

出版人 **檜 常 善**

上京区東區組三茶街幸町西八丁五丁目

京都府平民

東京觀世清孝 梅若實 京都斤山晋三 浅井喜次郎 林喜右門 蘭久右門 浅野繁之助 林田喜代造 武田藤馬 藤木保則 大江信之助 井上勝太郎 立花傳三 三宅作十郎 奥田彦登門 馬淵太右門	大改生一九兵南 大西濫一郎 橋岡忠三郎 岡田泰造 新西市兵南	諸國 東堀崎堀井吳三郎 夜船松本善助 越後高岡清水庄平 近江長濱吉田作平 伊豆松濱玉井新次郎 東海三河村上勘兵南 四條幸町大谷勘兵南 三條寺町杉本甚助 日川京町福井源次郎 五條高倉澤田友五郎 花田西園寺永田調兵南 寺田素藤井作兵南 日綿小路山田茂助 日佛小路北川甚七 古川前澤田吉右門	弘賣 所書 肆
---	--	---	---------------

觀世流うたの本賣弘廣告

右謠本八段來出本長兵衛所有元治元年七月京都大火之初土蔵に燒來依りて
 保版不殘燒失致し山幸版本彫刻可致し如不意行彫刻難出來每據我亦方引
 更存立公其後長兵衛死去山本絶家相成其有觀世歌元新版預出外如觀世
 家元亦右謠本亦來數十年の星雲と雖不況に致し増補追加印刷附送るに
 悲し明治十年第廿二世觀世歌元授合際と損版本彫刻可致し行付同年以來新版彫製
 於私店販賣公右謠本裏書名前此一紙と上何卒用向公作下及傳奉致上候
 一 大本 壹番綴 壹冊二分 代價金

右諸君之嗜好行發賣仕向又内外搦本之向不足有之故、以重次第是本仕其方法
 用向傳奉致上候
 明治十六年十月
 觀世流謠本根元
 山本長兵衛後傳
 繪常介

